

利用者の声は「宝の山」～満足度を半歩アップさせる施設・イベント運営～

各地に建設されている環境学習施設は、その地域が抱える廃棄物問題や環境問題に対応したイベントやプログラムを準備して施設運営に取り組んでいます。そして、施設への満足度をアップさせるには、利用者の声が直接のヒントになります。

今回のフォーラムでは、利用者からの声をすくい上げて施設・イベント運営に取り組む事例を紹介します。さらに、事例を基にした議論を通して各施設にそのノウハウを水平展開させたいと考えています。

既存施設だけでなく、これから新規開設される施設にとっても有意義なフォーラムになるはずです。関係する多くの方のみなさまの参加をお待ちしています。

【日時】 9/18(木)10:45～12:15

【場所】 第6会場:オークマ工作機械工学館 2F 講義室

【プログラム】

1. 冒頭あいさつ 花嶋温子部会長(大阪産業大学)
2. 「コミュニケーションからつながるリユースの輪」
永田秀和、浅井久美(中部リサイクル運動市民の会)
誕生から45年目を迎えた中部リサイクル運動市民の会。利用者とのコミュニケーションを通して新しい活動を展開している。市民ボランティアと資源回収拠点を運営するほか、リユースの推進・不用品の寄付受け付け、チャリティーショップの開催など活動の幅を広げてきた。
3. 「20年以上続く、大型ごみ(粗大ごみ)のリユース事業が今も人気の理由とは」
東飛郎(札幌市リサイクルプラザ)
札幌市リサイクルプラザのリサイクル事業は長年続いてきたが、利用者数はいったん下火に。そこで、利用者の声を吸い上げることで「V字回復」に成功。盛り上がりを見せている。
4. 「住民の声を集めて誕生した施設」 関野正(国崎クリーンセンター啓発施設)
国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」は建設に先立ち、地元の住民たちによる「施設整備検討委員会」「建設フォローアップ委員会」により施設のあり方が検討された。完成した施設は、住民の声をできるだけ反映したものとなった。
5. パネル討論／会場からの質疑応答／まとめ 花嶋温子部会長